

ICBA Newsletter

会員のみなさまへ 1

ダンさんからの手紙 1

ニュース 2

新しい HP について 3

新しく開設された文庫紹介 4～5

絵本勉強会のすすめ 6

My Bookshelf 7

国際児童文庫協会 8

国際児童文庫協会 ニュースレター No 70, June. 2011



～大震災からの復興を願って～

会員のみなさまへ

大震災から数力月の時が経ちましたが、いかがお過ごしでしょうか。
このたびの地震、津波、そして原子力発電所事故で、平和な日常を奪われてしまった被災者の方々を想うと本当に心が痛み、言葉もありません。直接間接の被害に関わらず、すべてのみなさまにとって一日も早く穏やかな日が訪れるよう願うばかりです。ICBAでは震災後すぐに国内の文庫の方々の安否を確認することができました。



一方、ICBAと共に何かできることはありませんか、と問い合わせ下さった国内文庫の方々、すぐに募金活動を始めて下さった海外文庫の方々と、たくさんの温かい声が聞こえてきました。このような未曾有の災害を目にして、じっとしてなどいられないのは、みな同じ気持ちだと思います。私たちも同じ気持ちで、ICBAにできる支援を探し始めました。震災後すぐに立ち上がった被災地の子ども達に絵本を送る活動は、短期間に予想以上の絵本が集まったものの、現在では資金不足により本の仕分けや配達の作業が難航しているとのことで、そういう活動の資金を支援することもひとつの方法かもしれませんが、ICBAでは、民間レベルの小さくとも長く続けられる支援ができないだろうかと考えました。そんな折、ICBAがお付き合いさせていただいているゆりがおか児童図書館で活動されていた森谷さん（仙台在住）から宮城県多賀城市桜木花園幼稚園への支援のお話をいただきました。こちらの園は震災の際の津波で園舎が2メートル浸水し、教材や絵本が流されてしまったそうです。現在、森谷さんを通じ、桜木花園幼稚園の鎌田園長先生と連絡を取り合っているところです。

またUK支部では、ご縁のあった岩手県山田町龍昌寺と連携して、被災地支援活動が始まりました。いずれにせよ今回の被災の大きさを考えますと、長期の支援が必要です。心は逸りますが、文庫でつながってきた皆様と力をあわせながら、困難な道を歩いていく子ども達を長く応援していきたいと思っています。具体的な方法が決まりましたら、みなさんにお声をかけさせていただきますので、その際はどうぞよろしくお願いいたします。（国際児童文庫協会 運営一同）

ダンさんからの手紙

I have been deeply moved and saddened by the devastation caused by the Tohoku Earthquake and Tsunami and want to send each one of you my deep sympathy in this distressing and difficult time.

Working with young children is a way of building for the future and I hope that you will think of your contribution to the children in our Bunko in this way. Children, too, must feel distressed and in Bunko we can make time to help them by listening and talking to them, showing sympathy and understanding of their fears and anxieties and encouraging their dreams and aspirations.

***Very sincerely,
Opal Dunn***



増えゆく小さな国際人たち



原稿を手に森嶋瑤子さん

昨年3月、ICBA UK 支部長森嶋瑤子さんが、平成 21 年度伊藤忠記念財団子ども文庫助成子ども文庫功労賞を受賞されました。この賞を記念して、東京、南青山彩ギャラリーにて、ICBA 主催の記念講演会「増えゆく小さな国際人たち」が催されました。当日はロンドンから駆けつけて下さった方々も含め、たくさんの方がお祝いに集まってくださり、華やかな会となりました。

森嶋 瑤子（もりしまようこ）

1984 年から国際児童文庫協会（ICBA）UK 支部支部長

ICBA UK 支部 <http://www.kodomobunko.org.uk/>

伊藤忠記念財団子ども文庫助成 子ども文庫功労賞とは

子ども文庫あるいは児童図書館を永年に亘り（概ね 20 年以上）運営してこられた方、または子ども文庫の普及に貢献されてこられた個人に対し贈呈される。1988 年にはオパール・ダンさんも受賞している。

伊藤忠記念財団 <http://www.itc-zaidan.or.jp/>



本はこころを結ぶ〜ブックリボン



財団法人出版文化産業振興財団（JPIC）は、国民読書年を記念し「あなたの一冊がわたしの大切な一冊になる」をテーマに、読み終わった本、棚に眠っている本を集め、読書環境の整わないところへ送るという社会貢献活動「ブックリボン」を行いました。JPIC から本の寄贈の申し出を頂いた ICBA では早速、海外文庫の希望をとり、送る手配をお願いいたしました。それに伴い ICBA 運営委員が倉庫で本を仕分けし、送る作業のお手伝いをしてきました。全国から集められた 107897 冊は、状態のよい良書で、文庫の子どもたちの顔を思い浮かべながら楽しく作業することができました。寄贈された方のこころが届きましたでしょうか？本を受け取った文庫のみなさんからの感謝の言葉は、ブックリボン担当者へお伝えいたしました。

JPIC（財団法人出版文化産業振興財団）

出版文化産業及び読書活動に係る生涯学習の推進、出版文化産業及び読書活動に関する調査及び研究、人材育成、情報の収集及び提供等を行うことにより同産業の振興を図るとともに、読書活動の推進をはかることにより、我が国経済社会の健全な発展・国民の生活文化の向上・青少年の健全育成に寄与することを目的とする団体。機関誌『この本読んで！』を出版。

<http://www.jpico.or.jp/index.html>



きたむらさとしワールド

昨年 11 月 28 日東京、成城ホールにて、国内文庫の子どもたちを対象にした多言語で絵本の世界を楽しむワークショップを、また今年 1 月 21 日東京、三軒茶屋キャロットタワー・セミナールームにて、大人を対象にした絵封筒ワークショップを ICBA の活動にご理解いただいた絵本作家きたむらさとしさんをお迎えして、開催いたしました。子どもたちの会では、きたむらさんのオリジナル紙芝居、クラフトなどで楽しい時間を過ごしました。

当日の様子→<http://www.icba-1979.org/会員ページ/>

きたむらさとし Satoshi Kitamura

1979 年にイギリスに渡って以来、イギリスを拠点に日本と行き来しながら絵本作家、イラストレーターとして活躍。デビュー作『Angry Arthur〜ぼくはおこった』でイギリスマザーグース賞受賞。『ふつうに学校にいくふつうの日』で日本絵本賞翻訳絵本賞受賞。『ミリーのすてきなぼうし』は 2010 年課題図書。

<http://www.satoshiland.com/>



オリジナル紙芝居を楽しむ

70号を発行するにあたって・・・

2009年に30周年を迎えた国際児童文庫協会は、今年32年目という新たな時代へ一歩踏み出しました。現在、運営委員8名（代表、事務局、海外担当、会計、音楽、広報）で、世界各地に急速に広がる文庫活動を支援し、それらをつなげるために活動しています。

ホームページによる迅速で広域な情報提供とニュースレターによる手渡しのコミュニケーションのふたつの手段で国際児童文庫協会の活動を伝えていきます。まだまだ試行錯誤している状態ですので、みなさんのご意見をお待ちしています。みなさんもお存知のように、国際児童文庫協会は、文庫支援のためにあるボランティア団体で、文庫メンバーの思いが協会を動かしています。



ICBAの公式HPが新しくなりました！

ICBAの
ロゴです
きのこの家？

ICBAの活動を
知って下さい

世界中の
IC文庫リスト

会員のみ
閲覧可能！
各文庫の活動報
告満載です
参考に使って
は？

ICBA 運営委員のブログです。
活動の裏側、懸ける思いを覗いてください

背景は、ICBA
オリジナルカード
販売中です！

ホームには、
最新のおしらせ
以下、更新履歴も。



* HPを更新しましたら、twitterでお知らせしています。
フォローしてください。@icba1979

本来なら、文庫仲間で集まり、意見交換・アイデア交換をしたりする場があることが望ましいのですが、距離や時差で実際に集まることがなかなか叶いません。そんな気持ちを埋めるべく、ホームページを見直してみました。コンピューター上ではありますが、実際に会って話をしているような形式になるように努力していきたいと思います。みなさんもぜひ活動報告をお寄せ下さい。

新しい公式 HP の特徴

- * 現在、文庫活動していられる方の活動の参考になるように！ → **会員ページ**、**MyBookshelf** その他
- * 新しく文庫を始めたい方に、ICBAでの文庫活動を知っていただけるように！！
(現在一部のページが工事中ですが、わかりやすいものを制作中です) → **活動**、**IC文庫**
- * ICBAと社会（支援団体・会社、関係団体など）のつながりを知っていただけるように！
(ICBAはいろいろな支援の元に活動が続いてきました) → **リンク**

<http://www.icba-1979.org/>

2010年度イギリスの新文庫



☆いろはきっず文庫☆

2010年7月発足 Kensington (ケンジントン)

2歳以上の子ども達とその家族で、ロンドン中心部を拠点に毎月第2・4火曜に活動中。活動内容は自己紹介、本の貸し出し、日本語学習、本の読み聞かせ、紙芝居、季節の行事にちなんだ工作、遊戯やゲーム、童謡や唱歌の合唱、伝承遊び、言葉遊びです。

いろはきっず文庫を通して、子どもたちが沢山の良質の本と出逢い、豊かな言葉と美しい日本語を身に付けること、異国の地にあっても、日本の文化や風習を月ごとの行事などを体験し理解を深めていくこと、そして、子どもたちと共にお母様方も楽しめる、環境にやさしい安全かつ健全な集いとして、末永く続けていくことを願っています。

☆ちいろば文庫☆

2010年9月発足 Tooting (トゥーティング)

3歳以上を対象に、2家族で行われていて、活動日は、隔週木曜日の4時15分から5時15分。アットホームな中での活動内容は、絵本の貸し出し、絵本・紙芝居の読み聞かせ、季節の歌、季節の工作、ひらがな・カタカナゲーム、日本の伝統遊び、お菓子作り、ごっこあそびです。活動は南西ロンドンエリアの会員宅で行われているため、アットホームでリラックスした雰囲気の中、子どもたちは仲良く、のびのびと楽しく遊べます。

☆まなざし文庫☆

2010年9月発足 Bedford (ベドフォード)

赤ちゃんから小学生までの年齢層の子どもたちが参加しています。活動日は、毎月第1・第3月曜日です。活動内容は、本(600冊以上)、DVD、ビデオの貸し出しのほか、物語だけでなく、身近な生物や自然などを題材とした学習物の本などの読み聞かせや、「ひらがなをかこう」、その他、毎回、創意工夫したアクティビティーも行っています。イギリスに住む日本の子どもたちに、日本語に親しんでもらうこと、本の楽しさを知り、そこに集まるお友達と楽しく遊ぶ時間を持ってもらえるよう努めています。子どもたちばかりでなく、お母さんたち自身も、まなざし文庫に来ることを、楽しみにしてくださっています。

この他にも、ICBAUKでは4つの文庫がスタートしました。

これらの文庫についてのご紹介は、次号でお知らせいたしますので、楽しみに！

☆かささぎ文庫	2010年11月発足	Newcastle	(ニューカッスル)
☆菜の花文庫	2010年11月発足	Newcastle	(ニューカッスル)
☆たけのこ文庫	2011年2月発足	Brixton	(ブリクストン)
☆東の森文庫	2011年4月発足	Epping	(エッピング)



新文庫inオーストラリア&アイルランド

☆レインボー文庫☆

2011年4月発足 オーストラリア シドニー
レインボー文庫は、平日の午前中に活動をしているジャカラダ文庫の子どもたちが、小学校に上がって集まれる場所を作りたいという思いから立ち上がりました。現在は4名の役員によって運営され、参加家族は11組17人の子どもたちが隔週の金曜日、学校帰りに集まっています。ジャカラダ文庫とのつながりは現在は本の共有、年に一回の合同人形劇の活動です。この文庫は、本が好きという思いだけでなく、素晴らしい本と出会うこと、本の楽しみを共有していく仲間を持つことによって人生が豊かになっていくという思いを持って活動をしています。(代表のアドラーあゆみさん)

☆スワン文庫☆

2011年6月発足
オーストラリア パース
スワン文庫は、毎月第2火曜日の10時から11時までは未就学児を対象、毎月第4月曜日の3時45分から4時45分までは就学児童を対象に活動しています。活動内容は、本の貸し出し、読み聞かせ、わらべ歌です。
参加メンバーは運営委員の4家族の他に、10家族程度を募集しています。スワン文庫は海外にいてもお母さんと子どもと一緒に本を借り、寝る前に一緒に読んでほしいという思いから、立ち上がりました。(リーダーのセイルス由美さん)

☆みどりの森文庫☆

2011年3月発足 アイルランド ダブリン

嬉しいことに、ICBAUK のつながりによって新たにアイルランド初のみどりの森文庫がダブリンに設立されました。近年、アイルランドにも在住邦人、特に国際結婚による永住目的の邦人の増加とともに、日系の子どもたちの数も増加しています。個人で所有する本の数には限りがあり、文庫という形で良質の絵本、児童書を共有し、集まって絵本を読むという体験を通して豊かな日本語に触れる体験を子どもたちに与えたいという願いから、みどりの森文庫がスタートしました。アイルランドでは、昔話や伝承にはこと欠かず、いまだにstorytelling という「お話の会」が地域のコミュニティーで開催されています。この国の伝統も踏まえ、将来的にはアイルランドの昔話や日本の昔話を子どもたちに語り聞かせるような会も目指しています。(代表の稲垣みどりさん)

2010年度伊藤忠記念財団「子ども文庫助成」助成受賞!

スワン文庫	オーストラリア	パース	低学年
かぶと文庫	オーストラリア	ブリスベン	低学年
汽車ぽっぽ文庫	イギリス	ベドフォードシャー	中学年
りんご文庫	イタリア	ローマ	中学年

2011年度伊藤忠記念財団「子ども文庫助成」への募集要項は、

http://www.itc-zaidan.or.jp/zaidan_bunko_bosyuugaiyou.htm まで。

応募を考えている文庫の方は、ICBA 運営までご相談下さい!

応募締め切りは7月31日消印有効です。

読み聞かせに・・・絵本勉強会のすすめ

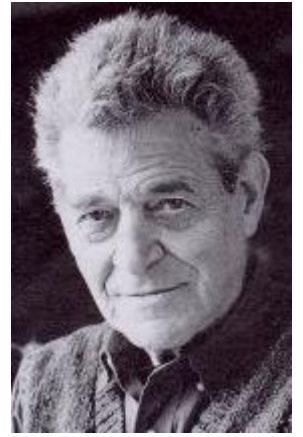
The official voice of ICBA

読み聞かせの幅を広げるために、みなさんはどうしていらっしゃるでしょうか？
先日、運営で絵本勉強会を開催。まずは、大人が絵本を読んでもらうことから始めました。
みなさんもよくご存知のウィリアム・スタイグの『歯いしゃのチュー先生』です。



ウィリアム・スタイグ
うつみお訳
評論社 1991

スタイグといえば『ロバのシルベスターとまほうの小石』が有名ですが
こちらのお話も人気の一冊です。ねずみの歯いしゃのチュー先生のところ
に、きつねの患者がやってきます。口の中に入って治療するチュー先生
がおいしそうに見えるきつね。チュー先生と奥さんは・・・



ウィリアム・スタイグ
1907-2003

勉強会といってもむずかしく考えることはありません。子どもに読み聞か
せるように、大人同士で読み聞かせをするだけです。読み手は子どもに読
むときと同じように、聞き手は絵本の絵をしっかりと見て、読んでいる声に
集中してください。自分が読み聞かせをしたことがある絵本でも、物語が新鮮に聞こえてくるで
しょう。読み手の速度や声のトーンの中に発見があるかもしれません。絵の中に描かれていたこんなことや、主人公の言葉
の中に彼らの別の気持ちをみつけられるかもしれません。その後は、感想を述べ合うのも楽しいことです。気付いたこと
でも、子どもの反応でも、疑問でも、他の人の言葉は、新しい発見につながることでしょう。

スタイグは、オーストリアからのポーランド系ユダヤ人の両親とともにニューヨークへ移住しました。4人兄弟の3番目。
芸術一家で、兄弟はそれぞれ美術や音楽に関わっていました。イラストレーターとして出発し、60歳から子どものため
の本を描き始め、1970年『ロバのシルベスターとまほうの小石』でコルデコット賞を受賞しました。彼のいたちは没
後に『みんなぼうしをかぶっていた』（セーラー出版 2003）という絵本になりましたので、子ども
といっしょに読むことができます。



ウィリアム・スタイグ
せたいじ訳
評論社 1978

続いて、『もののいうほね』『ピッツアぼうや』を読んでもらいました。どちらも
楽しいお話で、主人公が人であれ動物であれ、描かれている家の温かさにほっ
とします。スタイグの描く人と動物の絵に、あまり違いがないからでしょうか。
今回は、「ウィリアム・スタイグ」の本をいくつか読んでみました。テーマは
季節のもの、色、数、動物、あるいは、なくても構わないと思います。少し時
間とり、ゆっくりとした気持ちで、子どもの気持ちになって絵本を読んでもら
う、という体験をしてみたいかたがでしょうか。



ウィリアム・スタイグ
木坂涼訳
セーラー出版 2000

英語文庫にはこちらがおすすめ！

『Brave Irene』（ゆうかんなアイリーン）をこんな人が読み聞かせ
してくれます。

http://www.storylineonline.net/brave/fullscreen_xl.html

大人向けの一冊



『つなみ -THE BIG WAVE-』

パール・S・バック著 黒井 健絵 径書房 2005年

これはパール・バックが1947年、日本を舞台に、津波で家族を失った少年
がまわりの人々に支えられ、再び海に向かうまでを描いたものです。自然とと
もに「生きること」は時に厳しく、打ちのめされることもあります。やがて
自然や人によって癒され、自然の一部となり生きていかれるようになります。
このたびの地震により、それぞれが「生きること」の意味を突き付けられてい
ると思いますが、その答えを見つけられるのでは？必読の一冊です。

MY BOOKSHELF

The official voice of ICBA



このコーナーは、ICBAの仲間の本棚から、絵本だけでなく幅広い分野の本を紹介していきます。気になった本はどれでしたか？

時には、自分のために“英語の本”を読んでみませんか？

**『The Missing Piece Meets the Big O』**

Shel Silverstein

HarperCollins (1981/5/6)

日本語版「続ぼくを探しにービッグ・オーとの出会い」講談社

人生の「壁」にぶつかっている方にお勧めの一冊。
登場するのは「かけら」と「まる」。自分で動くことのできない三角形の「かけら」。「かけら」は自分がぴったり当てはまる相棒を探していた。やってくる様々な形の物体に自分を当てはめようとするが、うまくいかない。やっと見つけた相棒「まる」。ふたつの物体はしばらく一緒に幸せな時間を過ごす。が、今度は「かけら」の方が変形し、ふたつの物体はうまくはまらなくなってしまう。やっと見つけた相棒の「まる」が去ってしまった後、「Big O」という物体に出会い、自分の新たな可能性に気付き、「動き」始める…。

読み手によって様々な解釈になるのでは。子どもは自分でも描きそうな簡単な絵に親近感を覚え、大人はこの哲学的な話に自分自身を重ねるはず。「かけら」のように一歩踏み出し、「壁」を越えていこう！

(ハンブティダンブティ文庫 漆原真弓)



漆原さんは Mrs.U from HD の「読めちゃう英語の本」というブログでいろいろな英語本を紹介しています。ぜひ一度覗いてみてください。 <http://happyreadingeigoehon.blog102.fc2.com/blog-entry-5.html>

大人気のパンダのひみつとは・・・

『パンダの手には、かくされたひみつがあった！』

山本省三著 遠藤秀紀監修 喜多村武絵

くもん出版 2007年 1470円+税



今年日本に中国からパンダがやってきました。4月1日から上野動物園で公開されています。パンダの好物は竹ですが、あの大きな手でどうやって細い竹をにぎるのでしょうか？ 解剖学者の遠藤秀紀さんの調べで、パンダの手に関する新事実がわかります。くもん出版の「動物ふしぎ発見」シリーズは、遠藤秀紀さんの監修で、動物の体のひみつやなぞに迫る今までにない動物絵本です。シリーズは他に「アザラシの目」「ゾウの鼻」「アリクイの口」などの不思議を解き明かします。図鑑ではなく絵本なので読みやすいです。(運営 海保)

僕の居場所はどこ？ 私の国はどこ？

**『サードカルチャーキッズ 多文化の間で生きる子どもたち』**

デビッド・C・ボロック ルース=ヴァン・リーケン著

嘉納もも 日部八重子訳

スリーエーネットワーク 2010年 1600円+税

「サードカルチャーキッズ(TCK)」とは、両親の生まれた国の文化を第一文化、現在生活している国の文化を第二文化とし、この二つの文化のはざままで特定の文化に属することなく独自の生活文化を創造していく子どもたち、のこと。文庫の子どもたちは、いろいろなバックグラウンドを持っています。その中で成長するということがどういうことなのか、をきちんと理解し、対処、支援していくことが大切だということが文章でわかる一冊です。(運営 海保)

<http://www.3a-cocoro.com/category/1427652.html>

International Children's Bunko Association

国際児童文庫協会は、

海外駐在、帰国、国際結婚、移住などによりバイリンガル・バイカルチュラルな環境に育つ子どもたちのための文庫開設や文庫活動を支援するボランティア団体です。
1979年の創立から32年間、活動を続けています。



I C Bunko

国際児童文庫は自主活動グループですが、文庫活動の可能性を信じる方、それに共感する世界中の仲間によって支えられています。そして未来の文庫を開設する“タネ”へとつながっています。

**ICBA 会員
募集！**

【ICBA 会員】

文庫メンバー1500円/年

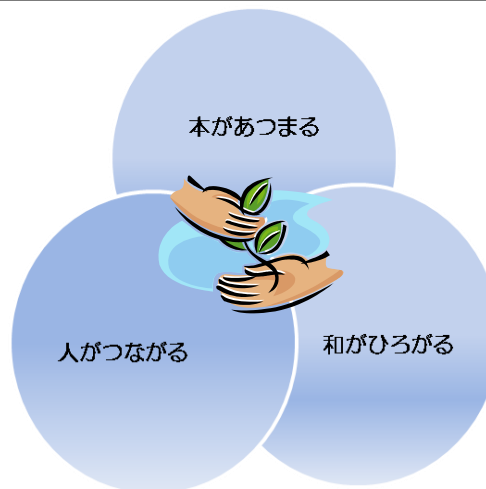
【サポート会員】

個人年会費 1500円

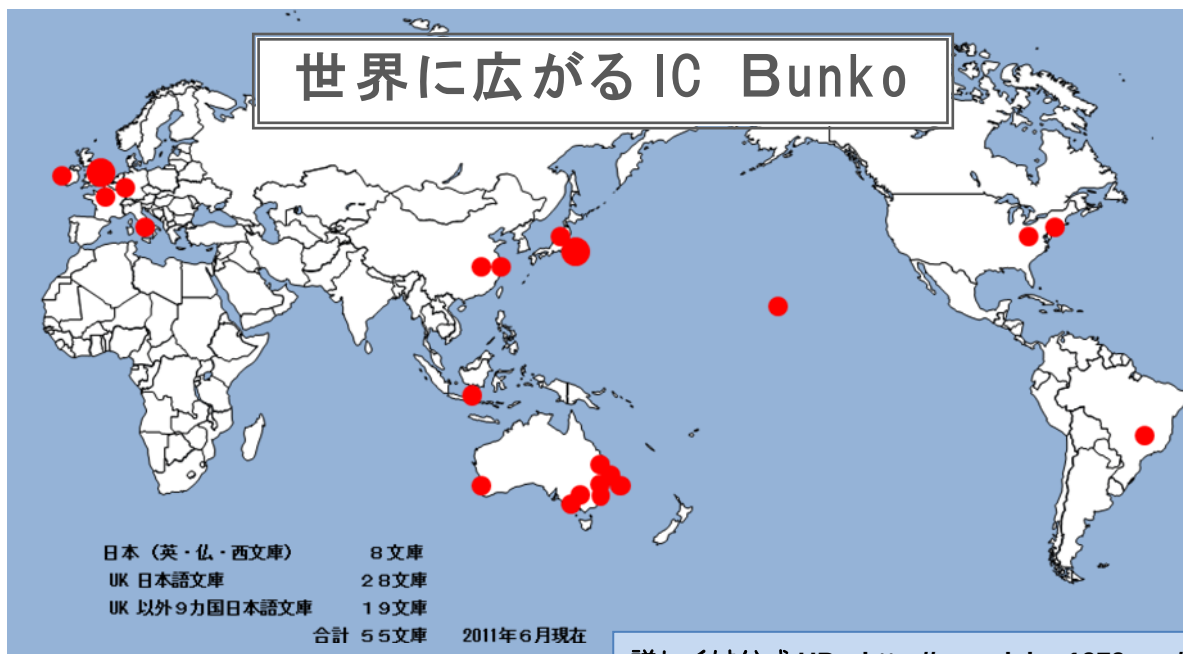
団体年会費 5000円

(一口)

*みなさまの会費によって
ICBA は運営され、また新たな
文庫開設への支援となります。

ICBA の活動がめざすもの**支援活動例**

- * 文庫開設支援として
ウェルカムバック選書と送付
- * きのこブック送付
(=会費に応じた本の送付)
- * HP管理運営、ニュースレター
作成送付など
本の紹介、本の寄贈、助成に関
する情報提供
- * 文庫運営の相談
- * 紀伊國屋書店、資生堂、文庫 OG、
個人の方々からご支援いただい
てます。

世界に広がる IC Bunko詳しくは公式 HP→[http://www.icba-1979.org/IC 文庫/](http://www.icba-1979.org/IC%20文庫/)**国際児童文庫協会 (ICBA) への入会お申し込み・お問い合わせは****E-mail: icba@g00.itscom.net もしくは TEL & FAX: 045-903-1744****公式 HP: <http://www.icba-1979.org/>****郵便振替 00190-8-10437 or 三菱東京 UFJ 銀行 渋谷支店(普) 6450386****口座名義はいずれも 国際児童文庫協会****ICBA Newsletter No.70 国際児童文庫協会ニュースレター 2011年6月号****発行: 丸山明栄 編集: 海保由子 仁志田華子**